



山下 浩志

2015年8月8日

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会が年間を通して業務を受託し、施設・院内デイケア等とシェアして行っている水上公園の花壇整備作業。1年のハイライトともいえるプール開業中の作業。5施設、27人で行った。

猛暑日に加えコンクリートの照り返しが強く、シャツはすぐ汗びっしょりになり、それがすぐ乾き、そしてまた汗...のくりかえし。各自の体調に合わせ、休憩時間以外でも木陰で休んだり水分補給をしながら。

華やかなプールサイドのすぐ脇のプランターでも作業。時折り手を止めてぼんやりと水着の群像をみつめる人も。遊ぶ人。働く人。見る人。見られる人。ここへ来たのは20年ぶりですとつぶやく人。

ふだんの水上公園で働く人は管理事務所の職員と少数の作業員ぐらいだが、この季節だけは警備員、監視員、作業員、売店店員などいっぱい。清掃作業員が話しかける。「プランターに腰をおろして煙草を吸うお客が多くて、花がつぶされちゃうから、座れないようにネットのフェンスを置いたんだ。水も毎日やってるよ。」小さな連帯感。

少し早目に終り、みんなで輪になって一言ずつの反省会。自分たちが初夏に植えた花が、このにぎわいの季節に文字通り「華」として輝いているのを見た感動を口々に語る。

そして各施設等の代表団で、2階の管理事務所へ実績報告に。一人ずつ緊張して自己紹介と感想を伝える。ここまでが仕事。

